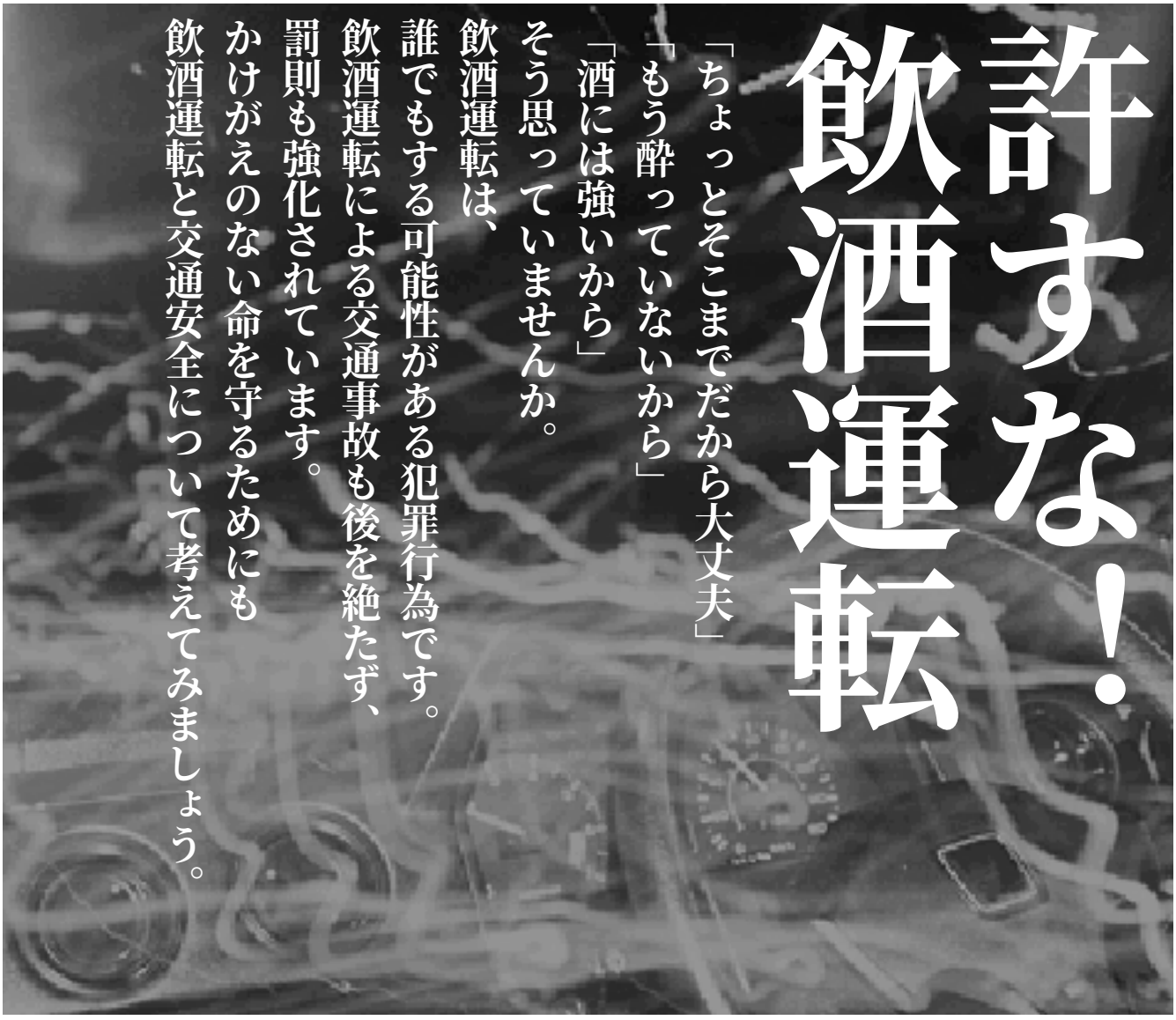
許すな！飲酒運転



法律上「酒気帯び」「酒酔い」の２つに分類

飲酒運転とは、ビール、日本酒などの酒類や、アルコールを含む食品を摂取した状態で自動車などを運転する行為のこと。日本国内では、道路交通法上、「酒気帯び運転」「酒酔い運転」の２種類に分けられています。

酒気帯び運転は、体内のアルコール濃度が、呼気1リットル中0・15㎎以上または血液1㎖中0・3㎎以上含まれる状態で運転する行為。

酒酔い運転は、濃度に関係なく、アルコールの影響で正常な運転ができないおそれがある状態で運転する行為のことをいいます。

飲酒運転はれっきとした犯罪

酒気帯び運転をすると3年以下の懲役または50万円以下の罰金、酒酔い運転では5年以下の懲役または１００万円以下の罰金が課せられます。

なお、昨年9月からは、飲酒運転するおそれがある人に車両や酒を提供した人、酒気を帯びていることを知りながら、飲酒運転の車両に同乗した人にも懲役または罰金が課せられるなど、飲酒運転をした本人だけではなく、飲酒運転を助長した人も処罰されることになっています。

飲酒運転は、刑事罰を受けるほかにも、仕事の上で懲戒処分を受けたり信用を損なったりと、社会的制裁を受けることもある取り返しのつかない犯罪行為です。私たち一人一人が飲酒運転を許さない心をもつことが大切です。

日野町の違反者率は県内ワースト2位

鳥取県内の平成19年中の飲酒運転違反者は３４３人。厳罰化・取締り強化などにより、18年（５３７人）に比べ大幅に減少しています。

日野町内の状況を見ると、平成19年中の日野町在住者の飲酒運転違反者は2人で、18年（４人）に比べ半数に減っています。

しかし、飲酒運転事故を含めた検挙者数を運転免許保有者千人当たりに換算した場合、県内19市町村中、日野町在住者の違反者率は2番目に高く、決して飲酒運転は他人事でないことがわかります。

少しだけなら大丈夫？

「運転には自信がある」と過信していませんか。
アルコールは、少量でも脳に働きかけ、判断を低下させる物質です。
「飲んだら乗るな」「乗るなら飲むな」を徹底し、お酒と上手に付き合いましょう。

アルコールの摂取で判断力は低下

「酒に酔う」とは、アルコールを含む飲食物を摂ることで血液中のアルコール濃度が高まり、理性・判断をつかさどる大脳皮質をコントロールする網様体がまひした状態をいいます。

酔うと、顔が赤くなったり、気分が良くなったりするほか、知覚や運動能力が鈍くなるため、安全運転に必要な注意力・判断力などが低下してしまいます。その結果、飲酒運転は速度超過などの危険運転を引き起こし、交通事故を起こす可能性が非常に高くなります。

酒に強い人でも安心しないで

科学警察研究所や交通事故総合分析センターの調査研究によると、低濃度のアルコールでも運転操作に一定の影響があることがわかっています。

科学警察研究所が行った研究では、酒に弱い人と強い人のアルコール濃度を同じにして運転能力を実験したところ、強い人も弱い人と同じように運転に影響が出ることがわかりました。

そもそも、酒に強い人とは、アルコールの代謝物質であるアセトアルデヒド（顔が赤くなる、気分が悪くなるなどの症状を起こし、酔いを自覚させる物質）の分解能力が高い人だと考えられています。

酒に強い人はアセトアルデヒドを分解できるので自分は酔っていないと自覚しますが、運転能力に作用するのはアセトアルデヒドではなくアルコールなので、酒に強いからといって過信は禁物です。

このように、酒を飲むことで、アルコールは確実に脳に影響を及ぼしているのです。少しでもお酒を飲んだら、絶対に運転しないようにしましょう。

町交通安全母の会会長の佐々木周子さんに、飲酒運転防止について聞きました。

一人一人のモラル向上を

日野町交通安全母の会会長
佐々木周子さん

▼交通安全母の会について

交通安全母の会は、子どもたちを交通事故から守ることを目的に結成された全国組織です。日野町では、約１００世帯の皆さんから会費をいただいて交通安全に関する啓発を中心に活動しています。

▼飲酒運転をなくすために

飲酒運転による事故で小さな子どもが犠牲になったり、非常に痛ましいことです。

飲酒運転への罰則強化などで件数は減ってはいますが、私は厳しい法律ができればそれでいいとは思っていません。罰則強化は一時的に効果はありますが特効薬ではありません。さらに私たちが交通ルールの徹底を繰り返し啓発していき、一人一人のモラルを向上させていくことが大切です。

▼まちの皆さんへ

飲酒運転に限らず、交通事故はちょっとの不注意が取り返しのつかないことにつながります。交通ルールを守るのはもちろん、自分の命は自分で守るのが一番。夜間出かけるときは必ず反射材を身に付けるようにしてください。

車の運転をする人も、運転前には絶対にお酒を飲まないほか、相手の気持ちになって、思いやりのある運転を心がけてほしいですね。